

水辺共生体験館「サマーセミナー」 に大勢の親子が参加！

人と川と生き物とのつながりを考える

「水辺共生体験館サマーセミナー」は、今年から始めた企画です。

この企画は河川環境楽園内にある「水辺共生体験館」をもっと地域の方々に活用していただくため国土交通省木曾川上流河川事務所が「研究機関や大学、行政など」に呼びかけ、共同開催として岐阜県河川環境研究所、独立行政法人土木研究所自然共生研究センター、岐阜大学、NPO法人e-plus生涯学習研究所、岐阜県河川課の方々の協力を得て、親子で楽しく学べるよう夏休みに「無料の講座」を開くことになったものです。

このサマーセミナーには143名の親子に参加していただきました。

日時	タイトル・内容	講師
平成25年7月31日 (水) 13:30~14:00	<u>「トンボ池の湿地～環境再生について～」</u> いろいろなトンボや、きれいな水草を育む「トンボ池」をご紹介します。	木曾川上流河川事務所 専門職 成瀬 佳明
平成25年8月1日 (木) 13:30~14:10	<u>「留学生が紹介するアジアの川」</u> 岐阜大学の留学生が、アジアの河川環境を紹介します。 ①モンゴルの川 ②インドネシアの川 ③ベトナムの川	岐阜大学 流域圏科学研究センター チンバトゥ ザヤー(モンゴル) ディアナ ハブサリ(インドネシア) グエン ウィン チャン(ベトナム) 助教 吉山 浩平 NPO法人e-plus生涯学習研究所(コーディネート)
平成25年8月6日 (火) 13:30~14:00	<u>「農業排水路に生きる魚たち」</u> 農業排水路に生息する魚たちを、様々な視点から分類してみます。	河川環境研究所 専門研究員 米倉 竜次
平成25年8月8日 (木) 13:30~14:30	<u>「おさかな分類入門～さかなの見分け方～」</u> 魚のかたちをじっくり見て、魚の種類を覚えるコツをご紹介します。	自然共生研究センター 専門研究員 小野田 幸生
平成25年8月22日 (木) 13:30~14:30	<u>「水害を防ぐ知恵～かすみ堤・輪中堤について～」</u> 私たちの生活を水害から守る「かすみ堤・輪中堤」についてご紹介します。 【小学校5年生以上の方を対象とします】	岐阜県河川課 技術主査 松本 省吾

詳細は次ページ以降をご覧ください

～環境再生について～

木曽川上流河川事務所 成瀬専門職

- ・ 国土交通省木曽川上流河川事務所として共同開催のトップバッターでセミナーをさせていただきました。
- ・ 水辺共生体験館から徒歩15分程度(約900m)で行ける笠松町無道寺にある「トンボ池」は河跡湖です。国土交通省としても湿地環境を整備しました。任意団体「トンボ池を守る会」の皆様や地域の方々も協力して維持管理をしています。また、小学校では環境学習などを行っている場所です。
- ・ 現地に行くといろいろなトンボが見れます。また、植物(水草)や魚も沢山見れます。皆さんも、ぜひトンボ池の湿地環境に行っていただきたいと思います。
- ・ スライドを使ってスクラッチゲーム感覚でトンボや水草、魚当てをしたり、トンボの生活史(体の変化・生活する場)やヤゴの形でトンボの成虫形を予想しました。また、ヤゴが食べるものやヤゴを食べてしまう生き物を紹介しました。
- ・ サマーセミナーは夏休み期間中に5回行う予定で、当日は初日ということからTV(岐阜放送「NEWS 5 PLUS」)の取材もあり、参加していたお子さんも緊張気味でした。

TV取材された「サマーセミナー」



トンボの名前当てクイズ



トンボ池の位置を説明



サマーセミナーの様子



参加した人の感想

参加者数 13名

・近くにトンボがたくさんいる所があることを知らなかった。講義の内容は良かったけれど参加者がもう少し沢山来ているともっといいなと思った。スクラッチゲームも楽しかった。

留学生が紹介するアジアの川

岐阜大学 吉山助教

グエン ウィン チャンさん

チンバトゥ ザヤーさん

ディアナ ハプサリさん

里山には清流が流れ、蛇口をひねれば浄水ができることは、日本では当たり前の光景です。しかし人が自然と関わる上で、そのような水環境を保ち続けることはとても難しいことです。実際、世界各国では、水不足や水質汚染など深刻な水環境問題が起きています。

今回のセミナーでは、岐阜大学で日本の水環境技術を学ぶ留学生3名から、母国における水環境問題について話をうかがいました。

- 一人目の講師のチャンさん(ベトナム出身)には、メコン川に関する水環境問題を紹介してもらいました。メコン川はチベット高原に発し、いくつもの国を流れてベトナム・メコンデルタへ至る国際河川です。上流の国におけるダム建設や、工業廃水が、下流の国々でさまざまな水環境問題を引き起こすという国際河川特有の問題について学びました。

- 二人目の講師のザヤーさん(モンゴル出身)からは、モンゴル首都ウランバートルにおける急速な都市化と人口増加にともなうセルベ川の水質汚染問題、そしてユネスコ世界遺産であるオルホン川における金の採掘による急速な水質汚染問題について学びました。

- 三人目の講師のディアナさん(インドネシア出身)には、水処理や浄水施設の整備が遅れている途上国都市部における生活の実態について、写真を交えて紹介してもらいました。

しかしながら問題点ばかりではなく、それぞれの国の美しい自然や文化の魅力についてもあわせて紹介してもらいました。

- 遠い国のようで実は近いアジア途上国における水環境の実情を知る機会はありません。セミナー参加者にとり、留学生から直接話を聞くことは貴重な機会となったのではないのでしょうか。同時に、留学生それぞれにとっても、自国の水事情や魅力についてわかりやすく紹介することはとてもよい経験となりました。

ベトナム出身の留学生
が紹介する国際河川



インドネシアにおける河川インフラの問題



インドネシア出身の留学生
が紹介する河川整備

モンゴル出身の留学生
が紹介する水質問題



参加した人の感想

参加者数 37名

・国際河川とか都市化による問題、水質など興味深かった。子供には少し難しかったかなと感じたので、今度は子供も参加できることがあるといいなと思った。でも、親(大人)には面白かった。

農業排水路に生きる魚たち

岐阜県河川環境研究所 米倉専門研究員

岐阜県河川環境研究所では、生物多様性の保全に配慮した農業・農村づくりを進めるため、水田周辺の農業排水路にどんな種類の魚がどのくらい棲んでいるのかといった調査をおこなっています。こうした調査で分かってきたことを広くお知らせするため、「農業排水路に生きる魚たち」と題し、セミナーを行いました。

当日は、岐阜県の農業排水路に棲んでいる魚の特色を知ってもらうため、手作りの「お魚カード」を用意し、(1)平野部でよく見られる魚、(2)山間部で良くみられる魚、(3)限られた地域にしか見られない珍しい魚、(4)良くみられる国外からの外来魚を参加者に当ててもらおうクイズ形式のゲームを行いました。

私たち日本人の主食であるコメをつくる田んぼ周辺の農業排水路は、多くの魚たちにとって大切な生息空間でもあることを楽しみながら学んでいただけたのではないかと思います。



解説の風景



カードゲームの様子



「お魚カード」



優勝は誰かな？

参加した人の感想

参加者数 34名

・農業排水路の延長が地球を何周も回る距離があることを初めて知った。いろんな魚が生きていることも初めてわかった。カードゲームも楽しかった。

～魚の見分け方～

自然共生研究センター 小野田専門研究員

- ・自然共生研究センターも共同開催の一員として、「おさかな分類入門～さかなの見分け方～」と題したセミナーを行いました。
- ・身近な生き物のお絵描きやクイズなどを通じて、普段何気なく見て知っているものでも注意深く見ていないことを実感してもらいました。それらを通じて、魚の鰭(ひれ)に注目してもらえるようにしました。
- ・魚の鰭の中でも背鰭は魚の種類を見分ける際に重要となるポイントのひとつです。そのことを学んでもらいつつ、背鰭の数や位置などから魚の種類を大まかに分ける練習も行いました。その過程で、間違えやすいメダカとコイ科稚魚についても、背びれの位置に注意すれば見分けられることを学んでもらいました。
- ・最後に、魚のシルエットから魚の種類を当てるクイズを6問出題したところ、全員が3問以上正解されました。参加者の皆様に魚の分類のコツをつかんでもらえたようで嬉しかったです。今後も、実物の魚をじっくり見てもらい、魚や川に親んでもらえればと思います。

背ビレの位置がメダカとコイ科稚魚を見分けるポイント



活発に手を上げるお子さん



シルエットで魚当てクイズにチャレンジする



クイズ回答説明の様子



参加した人の感想

参加者数 40名

- ・正面から見た魚の顔がカエルと似ているなと思ったら面白かった。魚はヒレの位置で見分けることが大事なこととわかったし、クイズも楽しかった。

水害を防ぐ知恵

～かすみ堤・輪中堤について～

岐阜県河川課 松本技術主査

・岐阜県河川課は共同開催にて、「水害を防ぐ知恵～かすみ堤と輪中堤について～」と題してセミナーを行いました。

・昔の人たちが考えた、かすみ堤や輪中堤のことを絵やスライドで説明し、洪水の時の働きを学びました。また、40年ほど前の昭和51年に長良川で堤防が決壊しましたが、輪中堤が下流の地域を守ったことを説明。お子様にも問題を投げかけながら進め、楽しく勉強ができました。

・最後に、お話しではあまりわからなかった、かすみ堤の効果を、模型による実験で理解していただきました。親御さんやお子様からも積極的に実験に参加していただき、開催者としても大変うれしかったです。



輪中堤の説明の様子



子供たちの積極的な参加の様子



難しい話にもみんな一生懸命



模型による実験の様子

参加した人の感想

参加者数 19名

・堤防って、私たちの家を守るのに大切なんだと思った。模型実験も見ていて楽しかった。模型の家の実験で、かすみ堤の中にある家があると、早く水に浸かることもわかった。模型実験で、かすみ堤の働きにより下流のまちが、守られることがわかった。